
さよなら、アキト

恵そら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さよなら、アキト

【ZPDF】

Z9728E

【作者名】

恵そら

【あらすじ】

空に憧れ、空に生きる青年アキト。そのアキトに心を寄せながら、その背中を見送るナナの、とある別れの一幕。

(前書き)

僅かながらでも興味を持つて下さり、ありがとうございます。

とても、とても好き……。

アキトがそう言つと、私は俯いてしまつた。その言葉を口にする時のアキトの表情があまりにも優しくて、目をそらさなければ虚しくていたたまれなかつたからだ。別人みたいに見えて怖かつた。俯いた私を気にするでもなく、アキトは遠くを見据えていた。アキトはもう、自分とは違う方向を見ている。自分はただ、アキトの視界から段々遠のいていくばかり……。

「次は、いつ帰つてくる?」

「さあ……。同じ風が、この場所にまた吹く時、かな

「何、それ」

空を映したアキトの瞳。

「嗚呼、もう止められないのだ。

「ケガ、しないで」

「ナナの声があれば大丈夫。あとは愛していると言つてくれれば完璧なんだけどな」

アキトの右手には、彼の友人が渡したテープが握られていた。以前の感謝祭でたまたま私が歌を披露した時のものだ。

「……冗談ばかり言わないでよ」

例え冗談でも、彼の言葉は私を大きく揺さぶる。ほんの些細な一言でも。

しかしそれをわかつていて、傷つくと知つていて、私はアキトに聞くのだ。『飛ぶのが好き?』と……。

私の言葉はどれほどアキトの心に響くのだろう。アキトは機体に乗り込もうと梯子に手をかけた。

「ごめん。でも、本当だ。支えになる。君が、君の声がいつも側にあるなら、僕は多分本当に『風』のように飛べる気がする

それだけ言つてさつさと操縦席に乗り込んでしまつ。

私が馬鹿な女であれば、この歯の浮くような口説き文句に胸を高鳴らせ、幸福そうに笑えていたかもしれない。生憎、私はそんなに単純ではない。声じやなくて、愛じやなくて、私自身が貴方に届けばいいのに……

だから言わない。愛しているなんて。

「そんなものなくとも、私は始めから、アンタのものよ」

唸るようなエンジン音にかき消された告白。

心が裂かれたように痛い。

私は笑つた。精いっぱい口角をあげて。

アキトの耳には、聞こえただろうか。

風が吹く。

鋼の鳥が、紅の空に美しい弧を描いた。

(後書き)

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。とても短い話ですが、気になつたところなどありましたらお教え頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9728e/>

さよなら、アキト

2010年12月7日02時17分発行